

日本医療福祉生協連近畿ブロック有志

ボランティアセンター 東日本大震災支援ニュース

NO. 2 2011年5月6日 発行担当 尼崎医療生協・瀬井

震災から間もなく2ヶ月。目の前で困っているが、差し伸べる手が足りない。



今日1日、西垣さんと2人で行動です。午前中に、山元町に行く途中に始めて亙理町の浜側へ。山元町より家や店が多く、山元町と比べ瓦礫の撤去が全然進んでいないように見える状況。写真は海から2キロ。この地域は1階が浸水して残った家が多く残されている。家族だけで途方にくれつつ、片づけをしている姿を写真に撮影させていただいた。町ボランティアセンターからのボランティアが入っているのを1世帯だけ見たが、これではまったく手が足りない状況。片づけをしても、1階が浸水したことから、住み続けるかを決

めかねている方が多い。片づけを1人でしている方に声をかけてみると、片づけでなく、瓦礫からいるものを判断しきれいにしているところとのこと。もし住み続けるのであれば、いまの家を壊して、高く土をもって立て直そうと考えている。建てた大工さんに相談したらとても残念がっていた実はその大工さんの孫も幼稚園ごと津波に流されて亡くなられた。

連携強化をめざし、山元町・社協ボランティアセンター、地元「りんごラジオ」と懇談。

午後は、京都から休みをとって長期に支援に入られている加藤さんの紹介で役場1階に臨時開設されている市民のFM放送局を訪問。対応いただいた金子さんは元日本生協連の職員。医療生協のことも理解されておられた。加藤さんが問題とされている避難所の環境（食事、スペース、トイレの位置等）が非常に悪く、なかなか改善されない問題等について意見交換することができました。今後、医療生協近畿ブロックから発信したい情報があった場合に相談にのってくれることを快諾していただきました。

同じ役場敷地内にある山元町社協ボランティアセンターにも訪問。宮城県社協から応援に来られている主事の山口さんと懇談。連休後ボランティアが減少し、同時に立ち入り禁止区域の解除地域が広がる中で瓦礫の撤去等の依頼も増えることから、県外のボランティアも受け入れているとのこと。医療生協がこの間泥だしを行っている地域では自分からボランティアセンターに依頼をせず我慢している方が多く、こちらから声をかけていく必要性があり、医療生協の果たせる役割であることをお話しした。社協からは、長い復興への道のりのため、社協としても実態を把握したいので、医療生協としての直接支援にしても、社協ボランティアセンター通じてでも、結果的には地元の社協で支えていきたいという思いを聞かせていただきました。



宮城県生協連の野崎専務と電話で情報交換。

みやぎ県南医療生協・梅津専務の紹介で電話。宮城県生協連としては各自自治体の社協ボランティアセンターに受け入れ要員を派遣し、ボランティアはセンターを通じてお手伝いをしているとのこと。近畿ブロックの取り組みを紹介し、具体的に可能なことから相談や連携を考えることに。ニュースも宮城県生協連に毎回送ることとしました。

今日も避難所（坂元支所、坂元中）、仮設住宅（坂元中跡地）、坂元町を訪問

現地責任者の仕事としてのひとつが、避難所や仮設、地域の定期訪問です。これらの現場から求められているニーズが具体的に把握することができます。

坂元中では、加藤さんが相談にのっていた方を継続して引き継げるようMさんを紹介いただいた。津波に巻き込まれ屋根の上で一夜を過ごし右足が凍傷の状態での避難所。宮城病院で出来る手当ては少なく、手当て後直ぐに避難所へ。坂元中への巡回診療は9日で終了。まだ右足に包帯をまいての治療中だが、バス、タクシー等を使つての受診が必要となる。隣にいる妹さんはご主人を無くされた。仮設はまだ決まらず。今後も定期的に顔を出すこととお約束。送迎ボランティアができれば・・・。

坂元支所では、罹災証明のお手伝いですっかり仲良くなったSさんが今日は避難所受付当番。最初に会ったときに比べ確実に笑顔が増えた。9時～5時の間、受付に座るとのこと。少し長すぎないか？仮設への引越しを手伝えれば思っていたMさんは引越ししたとのこと。代わりにその部屋に移動されていたSさん（ご主人と息子さんの3人）もまだ仮設が決まっていないとのこと。半袖Tシャツがほしいとの事。

仮設住宅も伺い、3日に加藤さんに紹介いただいたTさん。同じ棟で昨日伺った二次避難所・太陽の村の区長さんが心配していたHさん宅を訪問。区長さんが心配していたことを伝えた。子どもさんたちは友達もでき、すっかり馴染むことができた。ただ、奥さんは被災した会社からとりあえず休んでくれと言われているとのこと。

支援物資として近畿の皆さんにお願いしたいものは、ズバリこの2つです。

1. 半袖Tシャツ（新品） 男性L、女性LLを多めに。
2. クロックス（新品） おしゃれなサンダルです。外出でも使えるし、サイズに汎用性があります

支援隊の派遣について（入梅までの5月に泥だし派遣隊）

神戸医療生協がバスで、21日（土）発、22日（日）朝から夕まで活動、23日（月）帰着の計画を組まれています。これに便乗を検討される生協は、神戸医療生協にご相談してみてください。

尼崎医療生協は神戸の日程が理事会や地区別総代会に重なっており、13日（金）発、14日（土）朝から夕行動、16日（日）帰着の計画を本日専務が判断されています。こちらも希望生協は直接、ご相談ください。

（泥だし支援隊を派遣する際の連絡事項）

スコープと土嚢袋は現地で用意します

長靴（泥は乾いているので）、軍手、飲み物、タオル、寝袋を各自用意してください。

食事は、コンビニ等での買出しとなりますので、お金を用意してください。

健康保険証も持ってきておきましょう。

宿泊は、みやぎ県南医療生協のご好意により施設を提供いただけますが布団がありませんので寝袋を。

怪我をした際のために、簡単な救急セットを支援隊ごとにご持参ください

支援隊の中に、お1人、めくれない床に対応できる方（元大工さんや得意な人）がいれば大変助かります（その際、電動ノコ持参をお願いします）

※泥だし以外のボランティアをお願いする場合がありますので、事前にご了承ください。

本日より、ヘルスコープおおさかより、組合員活動部の黒田岳（くろだたかし）さんが合流しました。

20日まで支援いただける予定で、心強い仲間が増えました。昨日のニュースで芝田町は柴田町。山元町まで40キロは20キロの間違いでした。訂正いたします。